

お正月に関わるあれこれには、
新年を祝い、健康などを祈る
さまざまな意味が込められています。
みんなで素敵な年にしましょう。

お正月を飾ろう



正月は、新しい一年のしあわせや豊作をもたらす「年神さま（歳徳神／としとくじん）」をお迎えする節目の行事として、昔から大切に祝われてきました。一年の行事の中でも特に盛大に行なわれ、いろいろな習慣が残っています。

正月の「正す」という言葉には「あらためなおす」「初め」などの意味があります。つまり「正月」とは、「古い一年を終えて、新しい一年をあらためて始める最初の月」でもあるのです。

●松竹梅（しょうちくばい）

松竹梅は「歳寒三友／さんかんさんゆう」ともいわれ、「冬の寒さにたえる逞しい三本の木」という意味があります。

松は、冬も青々としていることから、竹は、雪の重さにも折れないしなやかさから、梅は、早く咲いて春の訪れを知らせるということから、めでたい木の代表となりました。

●鏡餅（かがみもち）

かつて、鏡は「神さまの宿るもの」であり、神さまそのものと考えられていました。そして餅を鏡のように丸く平らにつくり、年神さまへの神聖なお供えとしたのです。丸い餅を大小二段に重ねる型になったのは、室町時代からといわれています。鏡餅は11日の鏡開きまで供えます。

●正月飾り

正月の注連縄や門松などの飾りものは、凶事から人間を守護してくれるようにとの願いが込められています。

正月飾りは、27・28日まで、もしくは30日に飾ります。29日は「苦」と読めること、31日は「夜飾り」とよばれて神さまに失礼とされることから、この日に飾ることは避けられます。

12月のすすはらいを終えて、清めた住まいに、門松を立て、注連縄をつけて鏡餅を供えると、そこは神さまをお迎えする神聖な場所になります。門松や注連縄は、おもに7日・14日にはずし、15日の小正月にたきあげます。「たきあげ」とは神聖な品々を燃やすことをいいます。

●門松（かどまつ）

その年の豊作と家族の幸福をはこんでくれる年神さまをお迎えするための目印とされ、昔はいろいろな常緑樹が立てられました。だんだんと松を使うようになり、時代や地域によって形もさまざまです。

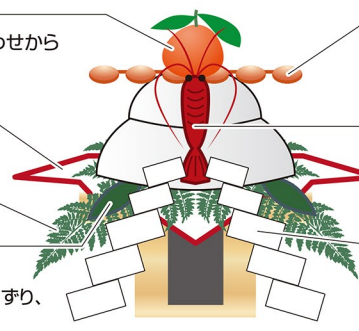


橙（だいだい）
代だい家が続くという語呂合わせから

四方紅（しほうべに）
災いを祓う

裏白（うらじろ）
裏が白いところから、清廉潔白であるように

ゆずり葉（ゆずりは）
新しい葉が成長して古い葉が落ちるので、親から子へ代をゆずり、子孫が続くという意味から



●申柿（くしがき）

柿は、福をかき集め、災いをかき取るという語呂合わせから

海老（えび）
えびのように、腰がまがるまで長寿でいられるように

紙垂（しで）
実った稲穂が垂れさがるさまをあらわしている

●注連縄（しめなわ）

左ないに縄をなつたもので、その末端を切らないでそのまましておくのが普通です。江戸時代の本では、左になうのは清浄であるため、また端をそろえないのは素直な心を表現するためと説明されています。

必ず新しい稲ワラを用い、年神・農耕の神を迎えるための標とし、内と外を区画して浄と不浄のけじめをつけるために張られます。

その形は全国さまざまで、普通の縄のように同じ太さのもの、中央が太くて「両端締め」と呼ばれるもの、輪になったものなどいろいろあります。

また、裏白の葉、ユズリハ、ダイダイ、昆布、ホンダワラ、海老などをつけたり、中央に「笑門／しようもん」と書いたお札を付けたりもありません。笑門は「笑う門には福来る」の意味、蘇民将来は、「神さまに宿を貸したおかげで悪い病気がはやったときもかからなかった」という伝説上の人物の名前から来ており、無病息災を祈る意味があります。

●注連飾り（しめかざり）

注連縄にいろいろな縁起ものを飾りつけたものをいい、地域によってさまざまな形があります。飾ることによって、「厄をはらう」という意味があります。

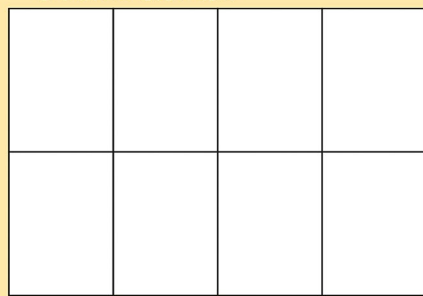


上総のお飾り

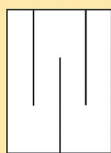
【作り方】

▽紙垂の作り方

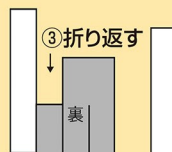
①半紙を8等分に切る



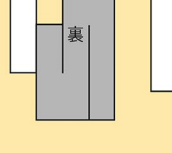
②切った半紙に3カ所切り込みを入れる



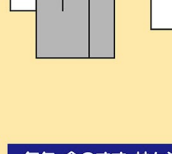
③折り返す



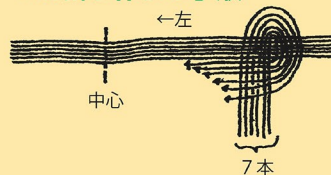
④折り返す



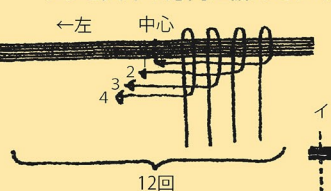
⑤折り返す



▽お飾り作りの手順

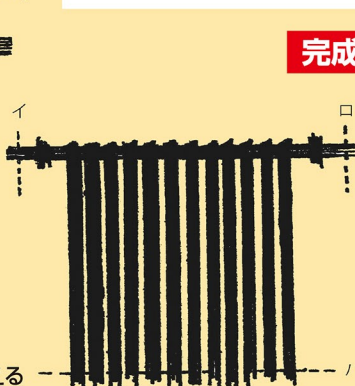


①ワラを上下に揃えて1束にし、別に穂を上揃えた約7本のワラを矢印の方向に編んでいく

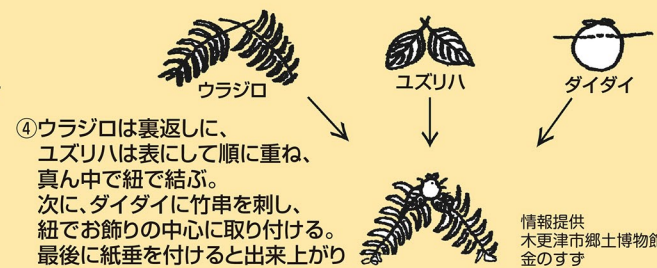


②①の手順を12回同じ方向に編んでいく
※編んでいく回数は、9回でも7回でも5回でも可

③イ・ロ・ハの部分ハサミできれいに整える



完成図



情報提供
木更津市郷土博物館
金のすず

毎年、金のすず、袖ヶ浦郷土博物館では実際に作ってみることができます。

旧安西家住宅



木更津市郷土博物館 金のすず
木更津市太田2-16-2
☎0438-23-0011

旧進藤家住宅



袖ヶ浦市郷土博物館
袖ヶ浦市下新田1133
☎0438-63-0811

●注連飾りを見ることが
できます！